

般に縁の遠いものでありますからして、初めに少しく此民族のことに付て御話を申上げて、それから佛典の事に話を進めて行きたいと存じます、併しそれも時間も僅かなことでもありますし、又十分な用意も出来て居りませぬやうな譯でございますから、到底細かく申上げるとは出来ませぬが、極めて大體の話に止まると云ふことも豫め御承知置を願ひたいと存じます。

此回鶻は、種々に書きますので、古くは回紇と云ふ字を用ゐて居ります、さうして後に回鶻と書くやうになつた、是は何でも舉動が頗る敏捷で、鶻のやうな動作をすると云ふ所から、後には紇より鶻と云ふ字の方を用ゐるやうになつた^①のであります、勿論是は御承知の通りウイグルと云ふ名を此字で寫したに過ぎない、どちらにしても元の言葉はウイグルと云ふので、唯これを支那人が漢字に寫します際に兩様の文字を用ゐただけであります、是は人種から申しますれば純粹の土耳其族でございます、従つて其言葉は古代の土耳其語を話して居つたのでございます、例の南北朝から隋朝の末にかけてまして土耳其と云ふ言葉を寫すのに勅勒であるとか、鐵勒であるとか種々の文字を用ゐたのでございますが、其土耳其族の中の一の部族でございます。

さて回鶻と云ふ字を用ゐ出したのは唐の頃からでございますが、それならば唐以前の歴史の上には其の名は現はれて居ないものであるかと申しますと、決してさうではないので、南北朝の頃、隋の頃にも明かに歴史の上に現はれて居ります、それは文字こそ違つて居りますが、或は韋紇と書き、或は烏紇、袁紇などと、種々な文字で現はして居ります、判然とウイグルの名を寫して居りますのは此の如く南北朝の頃からのことでございますが、或學者はもつと前の時代に之を求めて、既に漢の時に此民族が現はれて居ると云ふ風に考へて居る人もないではないのであ